

第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人秋田大学

1 全体評価

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げており、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、さらに、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進することにより、全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人の育成を目指している。第3期中期目標期間においては、教育の質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成すること等を目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究				○		
社会連携				○		
その他			○			
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

医理工連携を推進することで、歩行用リハビリテーションロボット、小型リハビリテーションロボット、座位バランス装置等の「医理工連携ブランドロゴマーク」添付商品の商品化を推進している。また、理工学部においては国立大学法人唯一の社会人向けの通信教育講座を開講しており、秋田県のみならず、全国から入学者を受け入れ、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献している。

一方で、「研究に関する目標」の項目1事項及び「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」の項目1事項について、「中期計画を十分に実施しているとはいえない」ことから、改善に向けた取組が求められる。

（業務運営・財務内容等）

学部運営に学外者等の意見を取り入れる仕組みである「教育研究カウンスル」「運営カウンスル」において、学外委員の意見を積極的に活用できる体制を整備するため、学外委員が占める割合をより高めた大学運営を行っている。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標				○		
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備				○		
(III) 社会連携及び地域に関する目標				○		
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、4項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 博士課程教育リーディングプログラムの実施

レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラムでは、資源学分野におけるグローバルリーダー養成のための体系的なカリキュラムを構築している。文部科学省博士課程教育リーディングプログラムとしての支援が終了した令和元年度以降も、国際資源学研究科において資源ニューフロンティア特別教育コースとして継続している。この特別コースでは、支援期間と同様の教育研究環境をプログラム学生に提供しているほか、従来、奨励金を受給していた学生についても、大学からの支援を受け、学業奨学資金（学生支援費）や授業料免除措置によって支援を継続している。（中期計画 1-1-2-1）

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

12 秋田大学

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症に係る対応について、前期の授業は原則全面的にオンラインで行い、後期は対面と遠隔の授業を併用している。対面授業について、後期開始後2週間は座席間隔2メートルの間隔とし、その後1メートルとしている。また、学生への支援金として30万円の貸与を行っている。

1-2-2 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-3 学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 学生への支援に関する目標に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-3-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学内インターンシップの実施

学生の職業観及び人間力を醸成するため、AUSS (Akita University Student Staff インターンシップ型学内業務雇用) を毎年度実施し、社会で働く経験を疑似体験させており、例年80名から150名程度の学生が学内業務へ参加している。(中期計画1-3-1-2)

1-3-2 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学生相談体制の充実

学生が時間や内容を問わずいつでも相談できる窓口を設置するべく、平成28年度に秋田大学学生相談ダイヤル（24時間対応）を開設している。フリーダイヤルで24時間いつでも相談できる場を用意することにより、学生には安心感を与え、様々な相談ができる環境を整えている。（中期計画1-3-2-1）

1-4入学者選抜に関する目標（中項目）**【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる**

（判断理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）**【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している**

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」1項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「医理工連携の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 医理工連携の推進

医理工連携を推進することで、令和2年7月までに、歩行用リハビリテーションロボット、小型リハビリテーションロボット、座位バランス装置等の「医理工連携ブランドロゴマーク」添付商品の商品化が中期計画に掲げる10品に達している。(中期計画2-1-1-1)

(特色ある点)

○ 航空宇宙分野における共同研究の推進

秋田県が成長・重点産業として位置付ける航空機産業において、軽量で丈夫な炭素繊維強化プラスチック素材の製造コストの低減等を目的として、平成29年度に秋田大学を含む県内2大学と2企業により「秋田複合材新成形法技術研究組合」を設立し、研究開発拠点を整備している。さらに、平成30年度には、航空機システム電動化のための秋田県・民間企業との共同研究実施体制として「秋田リサーチイニシアティブ」を設立している。(中期計画2-1-1-1)

2-1-2 (小項目)

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

2-2 研究実施体制等の整備に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「十分に進捗しているとはいえない」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【評価結果】中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない

(判断理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「大学発ベンチャー企業支援の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。

<特記すべき点>

(改善を要する点)

○ 大学発ベンチャー企業支援の状況

「大学発ベンチャー企業支援について、ベンチャー起業に繋がる見込みのあるシーズを持つ研究者へヒアリングを行うなどの取組を実施しているものの、令和2年度時点での大学発ベンチャー企業数は5件であり、累計10社以上認定するという目標の達成は難しい状況である。(中期計画2-2-1-3)

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「進捗している」1項目が「十分に進捗しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない

(判断理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「県内就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。

<特記すべき点>

(改善を要する点)

○ 県内就職率の状況

秋田大学学生の県内就職率について、「インターンシップセミナー」や「ジョブシャドウイング」等の県内就職促進の支援事業や、全学生に県内就職のメリットを示すパンフレットの配布と同メリットに関する学生向けセミナーを開催し、県内就職を喚起するなど、地元定着率の向上の取組を行っているものの、県内就職率は平成28年度から令和元年度にかけて33.3%から37.4%となっており、目標値48.0%を達成することは困難と判断されるため、県内就職率の向上策についてさらに工夫する必要がある。（中期計画3-1-1-3）

3-1-2（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 理工学部の社会通信講座

理工学部においては、国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育である秋田大学理工学部通信教育講座を開講しており、秋田県のみならず、全国から入学者を受け入れ、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献している。

(中期計画3-1-2-2)

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 国際資源学部の英語教育

国際資源学部においては、平成26年度の学部設置以降、2年次以上の専門科目は全て英語で実施しているほか、大学集中英語(I-EAP)、English Camp、ディスカッション演習、ディベート演習等を通して英語力を養成している。教育効果については、1年次生から3年次生を対象としたTOEIC-IP試験の結果により検証しており、特に、3年次においては2年次時点の結果と比較すると、1年間で平均点が約40点上昇している。(中期計画4-1-1-1)

4-1-2 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

12 秋田大学

(2) 附属病院に関する目標

高齢社会における医療モデルを構築するために分野横断的に基本的診療能力育成を推進する卒前卒後シームレスなシミュレーション教育・研修に取り組むとともに、がん診療関連の医療従事者を対象とした教育・講習の充実を図っている。診療では、主要ながんの根治手術の低侵襲化の推進するため、ロボット支援手術等低侵襲手術を積極的に導入するとともに、地域医療の一層の充実、県全体の救急医療体制強化に取り組んでいる。

<特記すべき点>

(優れた点)

(教育・研究面)

○ がん診療関連の医療従事者を対象とした教育の充実

平成29年度より「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONナル）養成プラン」に採択されたことに伴い、中期計画の6年間で掲げる目標に対して、教育・講習の回数が2倍以上となっており、また参加人数600人以上を4年目終了時点で大幅に超えているなど、がん診療関連の医療従事者を対象とした教育・講習の充実を図っている。

○ 卒前卒後シームレスなシミュレーション教育の充実

高齢社会における医療モデルを構築するために分野横断的に基本的診療能力育成を推進する卒前卒後シームレスなシミュレーション教育・研修の取組は、これからの日本の医療教育研修のモデルとして全国的にも注目されてきており、シミュレーション教育に関する国内外の先進的取組事例として、これまでに、学外（国内外）の医療機関が主催するセミナーの開催、公益財団法人日米医学医療交流財団の教育調査への対応を行っている。

(診療面)

○ 低侵襲手術の積極的な導入

主要ながんの根治手術の低侵襲化を推進するため、腎がんに対するロボット支援手術については、平成28年度は22件、平成29年度には対前年度比400%増と大幅に増加するとともに、前立腺がんに対する手術は、平成29年度以降、全例でロボット支援手術により実施している。さらに平成30年4月より食道がんに対するロボット支援手術について、平成29年度実績3件から600%以上増の20件、子宮体がん低侵襲手術施行のための基本となる腹腔鏡下子宮全摘出手術の平成30年度の施行数は、平成29年度実績13件から約3倍の41件となっているなど、低侵襲手術の積極的な導入を図っている。

(運営面)

○ 医師・看護師等の負担軽減、医療職種間の役割分担の推進

医師等の負担軽減・処遇改善のため、看護部、薬剤部等による実施計画の策定と達成度の評価を毎年度実施しており、看護部による「認定看護師の効果的活用」や「がん専門看護師の効果的活用」や医事課による「医師事務作業補助者（入院クランク・外来クランク）の配置」、薬剤部における「薬剤師による持参薬確認への介入率向上及び処方支援」等の取組により働き方改革を推進している。

○ 地域の医療需要を踏まえた、都道府県等との地域連携強化

本院敷地内に屋上ヘリポート（立体駐車場を併設）を設置しており、第3期中期目標期間中（令和2年3月末まで）の受入れ件数は合計239件（平成28年度：58件、平成29年度：48件、平成30年度：61件、令和元年度：72件）となっている。秋田県で唯一の特定機能病院として高度医療の提供や、基幹災害拠点病院としての役割を担っており、地域医療の一層の充実、県全体の救急医療体制強化に取り組んでいる。

（3）附属学校に関する目標

附属学校では、使命の一つである地域の教育界のニーズに応えるために先進的な取組等を実施し、その成果物を還元することにより、その使命を果たしている。

また、附属学校の児童生徒に対し、大学教員や大学への留学生を活用した「理数教育プロジェクト」、「国際理解教育プロジェクト」を実施し、自然科学等への理解を深めている。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 先進的な教育手法の開発

附属学校では、地域の教育課題を解決するために先進的な取組を実施している。特に附属中学校では、アクティブ・ラーニング型のグループ学習の手法である「ミエルトーク」を開発し、秋田市中学校校長会での事例発表、学習方法をまとめたDVDを作成・配布することで普及啓発に努めている。特に、DVD配布先には授業改善に貢献したかを確認する追跡調査を行い、9割の配布先より「役に立っている」との回答を得るなど、地域の教育課題解決に寄与している。

○ 大学のリソースを活用した教育活動の実施

附属中学校では自然科学や科学技術への理解を深めるため、大学教員等による理科、数学等の講座を開催し、平成28年度から令和元年度までに合計30回実施している。

また、附属小学校、附属特別支援学校では、大学の留学生が学校に出向いて行う「国際理解教育プロジェクト」を通じて留学生との交流を行っており、平成28年度から令和元年度までにそれぞれ合計4回、合計21回開催し、児童生徒の国際理解教育の推進に寄与している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載11事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。
--

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

中期計画【53】については、教員（承継職員）について、平成28年度にその10%（約60人）を年俸制に移行するとともに、平成29年度以降はその割合を維持するとしているが、平成28年度において7.9%にとどまっており、令和元年度には19.5%となっており、「中期計画を十分に実施している」と認められるが、当該計画を上回って実施しているとまでは認められないと判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○ 学外者の意見をより活用できる独自の学部運営システムの実現

学部運営に学外者等の意見を取り入れる仕組みである「教育研究カウンスル」「運営カウンスル」において、学外委員の意見を積極的に活用できる体制を整備するため、学長の意向を反映し、学外委員が占める割合をより高める（教育文化学部教育研究カウンスル：36%→44%、理工学研究科教育研究カウンスル：33%→50%、理工学研究科運営カウンスル：40%→50%）とともに、教授の選考（採用、昇任）にあたって、各部局の教育研究カウンスル等の議を経た全ての教授候補者について、人事調整委員会による面接を実施し、学長自らが全学的な視野に立った教員配置を実践するなど透明性の高い大学運営を推進している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載4事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載2事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。